

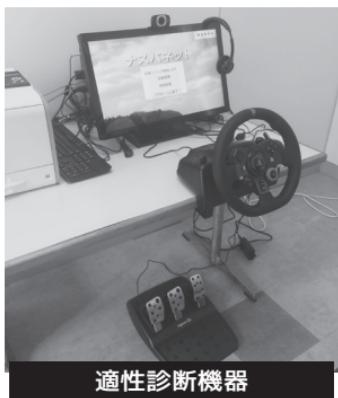


## 安全運転指導の効果アップを目指して

～組合に適性診断受診機器を常設～

山梨県トラックターミナル協同組合(石澤啓一郎理事長 組合員18社)では、運転手の性格、運転態度、視覚機能などの適性診断を行うための適性受診機器(i-NATS ナスパネット)を組合に常設し、9月から本格的に運用を開始した。

国土交通省は、旅客(バス・タクシー)と貨物自動車運送事業者(トラック等)に、事故を未然に防止することを目的として運転者の適性診断の実施を義務付けており、会社内の運転管理者が運転手の適正診断の受診結果をもとにカウセリングなどを行い、運転手に安全運転に関する助言・指導を行わなければならぬことになっている。



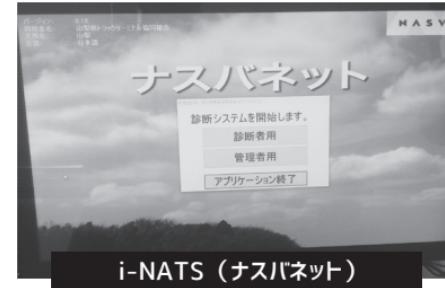
適性診断機器

山梨県トラックターミナル協同組合

され運送業務に支障がでることから、組合員から組合事務所への適性診断機器の常設の希望が多く上がっていた。

今回組合事務所内に常設したことでの、受診のために団地内を移動する時間的ロスもなく業務の空き時間に運転手が受診できるなど利便性が高まり、定期的な受診率もアップすると期待も大きい。

組合としても、交通事故防止は運送に関わる業界として積極的に取り組む必要があり、機器の常設を機に適性診断受診を広く呼びかけ、受診結果を運転手の安全運転につなげたいとしている。



i-NATS (ナスパネット)

### ※適正診断機器(i-NATS ナスパネット)

パソコン端末を用いたCGシミュレーション方式により、運転者の性格、安全運転態度、認知・処理機能、視覚機能など個人の運転特性(クセ)を測定する。診断結果は、運転管理者の助言・指導のための資料とともに、受診者へ数値を示すことで日頃の運転ぶりについて振り返ってもらう役割ももっている。